

第 71 回大腸癌研究会 家族性大腸癌委員会
(HNPCC の登録と遺伝子解析・ポリポーシス委員会合同委員会)

議事録

- 日時:平成 21 年 7 月 2 日(木)
- 場所:大宮ソニックシティビル
- 出席者(委員のみ記載):

新井正美、石川秀樹、岩間毅夫、宇都宮譲二、大木進司、加藤知行、金光幸秀、小泉浩一、小西文雄、小山靖夫、白水雄、菅野康吉、杉原健一(代理:樋口哲郎)、富田尚裕、長谷川博俊(代理:遠藤高志)、藤田伸、松原長秀、武藤徹一郎、森谷宜皓、山口達郎、渡邊聡明(以上敬称略、五十音順)

● **議題1 前回委員会議事録(案)の確認**

- ・ 追加、削除等、修正部分があればご連絡いただきたい。

● **議題2 HNPCC 登録状況等の報告**

- ・ 2007 年末で HNPCC 新規登録を終了したため、新規登録者はいない。
- ・ 遺伝子解析および遺伝子判定は全症例について完了した。
- ・ 追跡調査については従来通りに行っており、無回答の施設には適宜再送を行っている。
- ・ 第 71 回委員会開催前の半年間における 40 件の追跡調査(その多くは 2009 年 5 月・6 月に送付)は送付時期が直近であったこともあり、前回報告時よりも 1 巡目から 5 巡目のいずれにおいても返答率は低下した。
- ・ 追跡調査においては 1 例の罹患情報を除き、生存情報が主であった。

● **議題3 第3次プロジェクトについて**

◆ ガイドライン作成について

- 家族性大腸がんガイドライン作成小委員会(仮称)の委員長 岩間先生による議事進行と事務局(仮) 小泉先生によるガイドライン作成進捗状況の説明があった。
- ・ 今までの成果を踏まえ、国際消化管遺伝性腫瘍学会(InSiGHT)等のものとは異なった日本独自の家族性大腸がんの取り扱い参考指針を作成し、将来的な診断と治療の発展に繋げる。
- ・ 委員を新たに追加しながら小委員会を構成し、日本家族性腫瘍学会とも連携して作成にあたっていく。
- ・ 2009 年 6 月に初期段階としての項目案を募ったところ、富田先生、山口先生、菅野先生、新井先生、田村先生、石川先生、武田先生より案が提出された。
- ・ 現段階での方向性としては、FAP と Lynch 症候群(HNPCC)に関する「診断」・「治療」・「予防」等の項目案を挙げ、それらに関連するコンセンサスのとれた妥当な資料を収集・検討したうえでまとめ、1 年から 1 年半程で WEB 上にてガイドラインを公開する。

● **議題4 InSiGHT の報告について**

◆ ドイツ デュッセルドルフでの InSiGHT の国際会議(2009 年 6 月 23-27 日)

- 赤木先生(埼玉県立がんセンター)による内容報告があった。

- ・ オランダ・デンマーク・ドイツ諸国の現状: 遺伝性のがんの登録と検査の制度が国レベルで整っており、さらに国際共同研究が行われている。
- ・ 日本の現状: 特に資金や継続性等の制約により、日本独自の遺伝性のがんの登録およびデータベース構築はいまだ難しい。
- ・ 打開策案: 共通のフォーマットを用いて各地で登録→資金の工面ができ次第、事務局を設置→各地のデータを共通の ID で一括管理し、日本独自のデータベースを作る→ガイドラインの作成に寄与

●議題5 第2次プロジェクトについて

- ・ 本プロジェクトが有用であったかどうかや結果開示について等の本プロジェクトへの評価をアンケート調査で求め、第3次プロジェクト構想の基礎資料を得たい。
- ・ 本委員会は、これまでの成果をもって、FAP 患者に保険適用等の社会的保障を与えるよう強く提言するべきである。